

# 西光寺だより

第二七二号 令和六年十一月一日発行

## ◆先月の報告◆

①十月四日（金）西光寺本堂にて秋季永代経法要を厳修致しました。

ご門徒の皆さんとそれぞれの先人の方々を偲ばせていただき、これからも西光寺が永代へ続いてゆくという法要をさせて頂きました。

また、今年も、西光寺にご縁のあるご門徒さまが、永代にわたって西光寺にご先祖さまを守っていただくという開關法要もお勤めさせていただきました。皆さんでその方のご先祖さまを偲び、お焼香をさせていただきます、その後、引き続き秋季永代経法要をお勤めし、ご法話を聴聞いたしました。ご講師は宮部誓雅さんでした。

お彼岸の説明から阿弥陀経の内容まで様々なお話を聞かせていただきました。ありがとうございました。



②十月二三日（水）茨木東組総代会研修会があり、西光寺から住職、総代さまとで参加してまいりました。日帰りのバスツアーで、浄土真宗の十ある派の一つである、三重県の真宗高田派の本山、高田山専修寺（せんじゅじ）に参拝してまいりました。

初めて行かれた方も多く、扉中央の大きな菊花紋などの華麗な彫刻の門、唐門から始まり、多くの国宝・国指定重要文化財が立ち並び、圧巻の存在感でありました。

この寺院は親鸞聖人の門弟の中のリーダーであった真仏上人が管理に当たられた寺院であり、同じ浄土真宗でありながらまた違った味わいを感じる事が出来ました。

本願寺では御影堂（ごえいどう）・阿弥陀堂（あみだどう）でありますが、専修寺では、御影堂（みえどう）・如来堂（にょらいどう）、といい、国宝であります。これは国宝木造建築物で5番目の大きさであります。その御影堂でお勤めをさせていただきました。

お荘厳も違うところがあり、一番目につくのはお花ではなく、松一本で飾られているところです。これは諸説あるようですが、長野県の善光寺（どこの宗派にも属さない単立寺院）に親鸞聖人が参詣されたときに松一本献上され、その松は「親鸞松」とよばれ、その形式を受け継ぎ専修寺では「高田の一本松」と呼ばれ、松の木、一本をお供えされていると聞かせていただきました。それぞれの違いが非常に味わい深く感じられました。

また他にも如来堂も阿弥陀堂とは違い横に長い長方形型であり、また紋にも違いがありました。そしてお食事をして帰路につきました。私もはじめて参拝させていただきました、圧巻の本堂とお荘厳を拝見し、親鸞聖人の思いを感じたことでもあります。今月は親鸞聖人の遺徳を偲ぶ報恩講法要。改めての気持ちでお勤めしたいと思います。



本願寺の紋と異なり、左右対称でなく、また真ん中の模様も小さめでありました。

◆十二月・一月の行事◆

・十二月 三二 日(火)

除夜の鐘

午後十一時五〇分〜

西光寺鐘樓

・一月 一日(水)

元旦会法要

午前十時

西光寺本堂

